聖学院大学総合研究所　競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会主催

2021 年度　競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会

発題者：松永直人・横山寿世理

2021年７月14日（水）、聖学院大学総合研究所による「2021年度競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会」がオンライン（Teams）で開催された。同研究会代表補佐の西村洋一・心理福祉学部教授の進行のもと、同研究会代表の平修久・政治経済学部客員教授の趣旨説明の後、松永直人・基礎総合教育部助教及び横山寿世理・人文学部准教授が科学研究費（科研費）受給の体験を話した。また、菊池美紀大学総務課マネージャーから研究支援制度などについて説明があった。参加者は42名（講演者２名含む）であった。

冒頭の趣旨説明の中で、科研費の公募及び内定時期の早期化並びに研究計画調書の変更に関する説明と、本学の2020年度の科研費受給は新規５名、継続11名で、前年の新規４名、継続８名を上回ったという報告があった。

松永助教は、「不採択を経て修正したこと」と題して、まず、過去に採択された研究を調べ、採択可能性がより高い研究区分へ変更したことを説明した。研究計画調書作成に際しては、自身の研究を積極的に引用して、研究内容・手法に精通していること、計画通りにいかなくても価値があることをアピールした。併せて、研究の価値・応用の仕方が分かりやすいように、研究結果をどのように社会へ還元するか、その方向性を示した。さらには、読み手（審査員）の負担を減らすため、専門用語を極力使わず、どこが重要か分かりやすくし、飛ばし読みでも分かるように工夫した。このようにして、採択に至った。

続いて、横山准教授は、「自己言及的な科研費応募について」と題して、まず、毎年同時期に応募を繰り返すことが、自分の研究を振り返り、これからの研究計画を立てる機会となったと語った。科研申請と平行して、他の研究助成金へ応募したり、他の科研費に研究分担者として加わったり、さらには、わずかでも研究を進め、研究業績をつくるよう努力した。また、不採択の経験を踏まえて審査区分を変更するとともに、ロバスト社による研究計画調書のチェックをもとに研究業績欄などの記載方法を変更し、採択に至った。

２人の体験談の後、具体的な研究計画調書のチェック内容、研究区分の変更理由、図示や字体の工夫、専門用語の使用方法などに関する質疑応答がなされた。また、参加者から、型通り調書を作成すれば採択されるとは限らず、文学的要素を取り入れたユニークな申請が採択された例の紹介もあった。

最後に、菊池Mから、託児利用、英文校正、論文投稿、研究活動のための講義代行及び事務サポート利用、秘密保持を要する研究資料の処分に関する補助制度、また、研究支援用機器の貸し出しなどの研究支援についての説明があった。

今後も、科研費をはじめとする外部研究資金への積極的な申請と、活発な研究活動が全学的に展開されることを期待したい。

左上：松永直人助教　右上：横山寿世理准教授
左下：西村洋一教授　右下：平修久客員教授

（報告者：平　修久［たいら・のぶひさ］聖学院大学政治経済学科客員教授）